

指導者と保護者が「子供の成長を支えるパートナー」になるために

東京都小学生バレーボールチーム:指導者・保護者 連携ガイドライン

～すべては子供たちの笑顔と成長のために～

1. 私たちが共有する「基本理念」

チームに関わる全員が、以下の3つの柱を大切にします。

- 子供の主体性の尊重:**バレーボールを楽しむのは子供自身です。
- プレイヤーズファースト:**大人の都合や感情ではなく、子供の心身の健康を最優先します。
- 相互リスペクト:**指導者は専門性を、保護者は家庭での支えを互いに敬意をもって接します。

2. 役割分担の見える化(図解)

トラブルの多くは「役割の境界線」が曖昧なことから起こります。

項目	指導者の役割(コート内)	保護者の役割(コート外)
技術指導	戦術、フォーム、選手起用の決定	見守り、家庭での自主練習の応援
生活面	チーム内ルール、マナーの指導	健康管理(睡眠・食事)、送迎
メンタル	競技に対するモチベーション向上	成功も失敗も受け止める心の安全基地

「二重指導」の禁止

(例)指導者が「低く構えろ」と言い、保護者が家で「楽な姿勢で待つほうがいい、構えなくていい」と言うと、子供は混乱し、スポーツが嫌いになります。技術的なアドバイスは指導者に一任しましょう。

3. コミュニケーションのルール

円滑な運営のために、以下の連絡ルールを徹底します。

☑ 連絡の5か条

- 適切な手段:**緊急時は電話、欠席連絡は専用アプリ/LINEなど手段を明確にします。
- 時間帯の配慮:**深夜・早朝の連絡は控えましょう(例:21時以降は控える)。
- 不満は直接・冷静に:**SNSや影での批判は避け、まずは責任者に相談します。
- ポジティブな共有:**ミスを責めるのではなく、できたことを共有し合います。
- プライバシーの保護:**子供や他家庭の情報を無断でSNSにアップしません。

4. チーム運営と負担の軽減

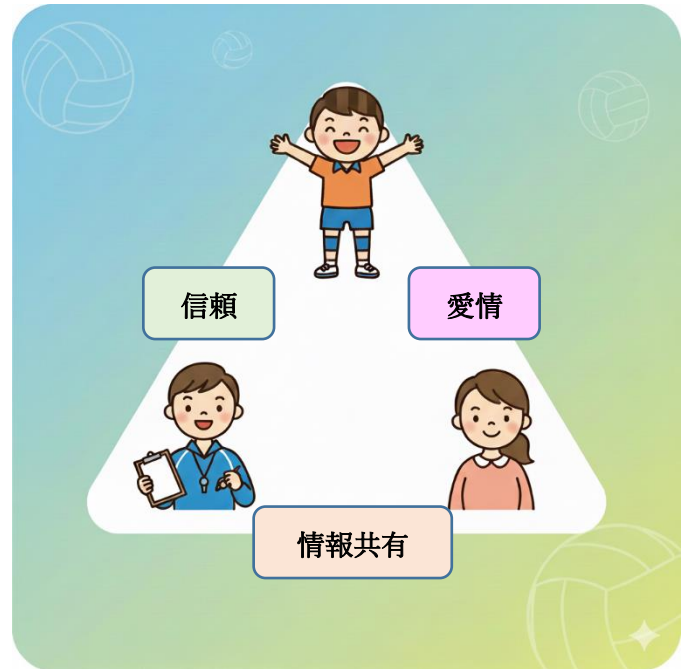
東京都のガイドラインでも重視されている「持続可能な活動」を目指します。

● 当番制の見直し

- 「できる人が、できる時に」: 強制的なお茶当番や車出しは見直し、外部サービスの利用や簡略化を検討します。
- 負担の可視化: 特定の保護者に負担が偏っていないか、定期的にアンケート等で確認します。

5. 成長を支えるトライアングル

「指導者と保護者」がしっかり手をつなぐ(連携する)ことで、子供が安定して成長できます。



(東京都教育委員会 学校・保護者・地域・連携ガイドラインより参照)

6. お悩み解決フロー(トラブルが起きたら)

何か問題を感じた際は、以下のステップで解決を図ります。

1. ステップ1: 学年担当の保護者、またはスタッフに相談(小さな違和感のうちに)。
2. ステップ2: 監督(代表者)と面談。
3. ステップ3: 地区長や支部長に相談。もしくは、都小連の相談窓口を利用。

7. 結びに

バレーボールを通じて、子供たちは「協力すること」「困難に立ち向かうこと」を学びます。私たち大人が協力し合う姿を見せることが、子供の成長にとってもっとも重要であると考えます。